

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



vol. 93

April
2013

International University of Health and Welfare

平成
24年度

学位記授与式

平成
25年度

入学式



二〇一二年 学部・大学院 学位記授与式

三月一四日、大田原キャンパスにおいて「二〇一二年 学部・大学院 学位記授与式」が行われた。



●学位記を受け取る市村有理さん

授与された。学長、大学院長、総長の式辞に続き、来賓の大田原市長・津久井富雄様、栃木県知事代理・保健福祉部保健医療監・名越克様より祝辞をいただいたあと、市村有理さんの「卒業生謝辞」、石山麗子さん（医療福祉学研究所 博士課程）の「修士生謝辞」、市村友香莉さん（看護学科）の「卒業記念品贈呈」をもって無事に閉式。その後はそれぞれ「学科別（大学院）学位記伝達式」に臨んだ。



●学位記を受け取る齋藤真樹さん



●「学長賞」が授与された学業最優秀者

医療福祉学部合計	161名	理学療法学科	山崎諒介
・医療福祉学	5名	作業療法学科	五十嵐美紀
・医療福祉・マネジメント学科	156名	福岡看護学部	
薬学部合計	145名	看護学科	劉孝志保
・薬学科	145名	福岡リハビリテーション学部	
小田原保健医療学部合計	149名	理学療法学科	中元唯
・看護学	49名	作業療法学科	中元華穂
・理学療法学科	54名	言語聴覚学科	大迫未央
・作業療法学科	47名	大学院長賞	
福岡看護学部合計	88名	修士課程	
・看護学	88名	・診療情報アナリスト養成分野	高橋真由美
福岡リハビリテーション学部合計	159名	・医療福祉学分野	宮崎聡
・理学療法学科	94名	・先進的ケア・ネットワーク開発研究分野	石山麗子
・作業療法学科	41名	卒業する留学生	
・言語聴覚学科	24名	・MUNKI BAKHAN BAYANMAA	
■大学院修士者合計	238名	（モンフサイハン、バヤルマー）	モンゴル
□修士課程合計	199名	・李 劍（リ、ケン）	中国
・医療福祉学専攻	198名	修士課程	
・保健医療学専攻	118名	・韓 明海（カン、メイカイ）	中国
・臨床心理学専攻	55名	・張 博研（チヨウ、ハクケン）	中国
・薬科学専攻	25名	・韓 海清（カン、カイトウ）	中国
・生命科学専攻	1名	博士課程	
□博士課程合計	37名	・白 種煜（ベク、ジンウク）	韓国
・医療福祉学専攻	37名		

学部卒業生・大学院修了生概要	
■学部卒業生合計	1247名
・保健医療学部合計	545名
・看護学	121名
・理学療法学科	100名
・作業療法学科	77名
・言語聴覚学科	95名
・視機能療法学科	43名
・放射線・情報科学科	109名

■学長賞	
・保健医療学部	市村友香莉
・看護学	市村有理
・理学療法学科	山田愛
・作業療法学科	大谷浩之
・言語聴覚学科	小原由美
・視機能療法学科	白川佑也
・放射線・情報科学科	田島莉菜
・医療福祉・マネジメント学科	齋藤美咲
・薬学	小田原保健医療学部
・看護学	仙波由紀子

【博士課程修了者（論文博士を含む）】

- ・井川達也（福祉援助工学分野）
- ・「高齢者の歩行・階段昇降動作時の主動作筋・拮抗筋活動」についての検討
- ・石川徳子（医療福祉経営学分野）
- ・「テキストマイニングから見えてくる新たな看護師の医行為」
- ・石川幸伸（言語聴覚分野）
- ・「失語症における言語性保持の発現に関係する要因の検討」
- ・石山麗子（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- ・「介護保険制度における居宅ケアマネジャーの家族支援と情報収集に関する研究」

- ・市川万邦（医療福祉国際協力学分野）
- ・「栃木県那須地方におけるロタウイルス感染症の臨床的特徴と流行株の特性に関する研究」
- ・入江容（理学療法学分野）
- ・「中学生野球部員の身体状況における実態調査」
- ・内田全城（理学療法学分野）
- ・「頸部回旋位における自覚的視性垂直定位に対する体性感覚系制御の意義」
- ・片岡三和子（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- ・「介護人材育成の実態と教育制度の方向性に関する研究」
- ・北川公子（看護学分野）
- ・「認知症高齢者の痛みサインを用いた評価枠組みの検討」
- ・昆恵介（福祉援助工学分野）
- ・「底屈制動短下肢器具内の踵パッドが歩行動作に及ぼす影響」
- ・齋藤真樹（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- ・「ケアプラン変更要因に関する研究」

- ・櫻井好美（リハビリテーション学分野）
- ・「月経周期における着地時の膝関節運動の変化と前十字靭帯損傷」
- ・佐藤政美（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- ・「老健施設における在宅復帰とケアスタッフの意識に関する研究」
- ・三瓶宏一（医療福祉経営学分野）
- ・Implementation of Clinic Performance by Telemedicine in Rural Areas of India
- ・杉山博幸（医療福祉経営学分野）
- ・「糖尿病分野におけるP.H.R.の課題と可能性」
- ・患者中心の医療を具現化するためのプラットフォーム型P.H.R.への再定義の試み
- ・鈴木みちえ（看護学分野）
- ・「市町村国民健康保険による特定保健指導不参加者のセルフケア能力と健診結果との関連についての検討」
- ・鳥越香織（創薬薬理医療学分野）
- ・「わが国における臨床研究の現状と改善策の提案」
- ・竹内瑠美（医療福祉心理学分野）
- ・「思春期の向社会的行動とメンタルヘルスの

- ・発達の関連性の検討
- ・出口弦舞（福祉援助工学分野）
- ・「ベッド移乗時の車いすブレーキおよびフットサポート操作を誘導する装置の試作と評価」
- ・脳卒中左片麻痺者の安全な自立に向けて」
- ・沼田稔（医療福祉経営学分野）
- ・「高齢者の転倒・骨折抑制とビタミンDの充足度に関するわが国医師の意識考察」
- ・浜崎満治（医療福祉経営学分野）
- ・「高齢者において健常群と虚弱群の間に早期機能低下群を設定する意義について」
- ・福山勝彦（理学療法学分野）
- ・「浮き趾に対する評価、分類の妥当性と、歩行からみた定義の検討」
- ・白種煜（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- ・「高齢者における口腔状態と全身健康がQOLに及ぼす影響」
- ・韓日比較」
- ・堀本ゆかり（理学療法学分野）
- ・「職能教育としてのコンピュータ診断の有効性」
- ・松田有子（看護学分野）
- ・「産業看護職のための救急処置研修プログラ

- ・ムの開発とその評価
- ・三浦和（理学療法学分野）
- ・「脳血管障害者の下腿圧迫による経腓抑制効果の検証」
- ・湯川聡（理学療法学分野）
- ・「血行再建術後の末梢動脈疾患における最大歩行距離と下肢血行動態および身体機能との関連」
- ・横塚記代（放射線・情報科学分野）
- ・「99mTc製剤の実用的な放射化学的純度測定法の検討」
- ・酒井正寛（医療福祉経営学分野）
- ・「占領下におけるサムス准将の医療福祉政策の研究」
- ・Health and Welfare Policy during the U.S. Occupation of Japan, 1945-1952
- ・相澤和美（看護学分野）
- ・「危機が予測される在宅精神障害者に対する危機介入モデルの生成」
- ・病院所属の精神科訪問看護師の場合」
- ・海老原恵子（医療福祉経営学分野）
- ・「ワクチンの医療経済評価の国際的動向」
- ・ヒトパピロウイルス（HPV）ワクチンを中心

- ・加藤隆（医療福祉経営学分野）
- ・「薬剤師による疑義照会の評価経済的貢献の定量評価と医療の質改善」
- ・正保智（福祉援助工学分野）
- ・「姿勢変化が呼吸時の胸壁運動に及ぼす影響」
- ・呼吸時体積変化の分析から」
- ・臺有桂（看護学分野）
- ・「幼児期後期の子どもの発達上の課題における母親の援助要請」
- ・藤岡菜（作業療法学分野）
- ・「手工芸介入前後の前頭野背外側部における脳電位変化」
- ・機能的近赤外線光法（fNIRS）を用いた検討」
- ・山口久美子（医療福祉経営学分野）
- ・「病院に勤務する看護士の離職に影響を与える職場環境と職務満足度に関する研究」
- ・和島英明（先進的ケア・ネットワーク開発研究分野）
- ・「行政が実施する介護予防教室への参加の意味と参加継続の方策」
- ・神奈川県Y市の介護予防教室の参加者と運営スタッフの調査から」
- ・（論文タイトルは変更される場合があります）

特集1 2012年度 学部・大学院 学位記授与式

- 2 学部卒業生・大学院修了生概要
- 4 北島政樹学長式辞
- 金澤一郎大学院長式辞
- 矢崎義雄総長式辞

- 4 ピックアップ卒業生
- 7 ピックアップ大学院修了生

特集2 2013年度 学部・大学院入学式

- 8 学部新入生・大学院新入生概要
- 津久井富雄大田原市長祝辞
- 9 高木邦格理事長式辞
- 北島政樹学長式辞
- 金澤一郎大学院長式辞

新任のごあいさつ

キャンパスレポート

- 12 第26回 小田原キャンパス
- 13 第16回 福岡キャンパス
- 14 第30回 大川キャンパス
- 15 第8回 塩谷看護専門学校

冬季海外保健福祉事情レポート

- 15 オーストラリア研修

トピックス

- 16 NS 4年生卒業前研修/FD学習会/ORF 臨地実習指導者会議
- ／SHM 国家試験直前対策講義&社行会/SHM 合同表彰式
- 17 第8回看護研究発表会/AD介護スキルアップ講座/ダンス大会
- で入賞しましたー大嶽達教授

施設インフォメーション

- 18 国際医療福祉大学病院/国際医療福祉大学三田病院/
- 国際医療福祉大学熱海病院/化学療法研究所附属病院

- 19 大学院・医療福祉eチャンネル

- 20 学生投稿ページ



帰省中に東日本大震災の犠牲となった沼田ゆきえさん（医療福祉・マネジメント学科2年＝当時）の父親の民雄さんが学位記伝達式に出席されました。卒業するクラスメイトが見守るなか、ゆきえさんの遺影とともに登壇した民雄さんに「2年次修了証書」が授与されると会場は温かい拍手に包まれました。

学長式辞(抜粋) 北島政樹

「温故知新」とは、昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解を得ること、すなわち、古きをたずねて新しきを知るという意味であります。伝統と歴史ある私立大学は、創立者が建学の精神を掲げ、それを学生が心に刻み伝統を創り上げていくことができます。本学は「共に生きる社会」の実現という、初代学長大谷藤郎先生の建学の理念とともに一九九五年に開学いたしました。さらに、高木邦格理事長の父上様、高木維彦先生は、「生命之尊厳 生命之平等」と書かれた額を終生大切にされ、このお言葉と建学の理念が現在まで脈々と継承されていると言っても過言ではありません。



今ここで、本学の校歌でもある「未来への扉」をとくに開きましょう。そして、もう一度、本学の建学の精神を心に深く留めていただきたいと思います。すなわち、疾病や障害を持つ人も健康な人も、お互いを認め合って「共に生きる社会」をめざし、「人間中心の大学」、「社会に開かれた大学」、「国際性を目指した大学」という三つの基本理念のもとに育成されてきた人材があなたの方なのであります。医療福祉の専門職として人間形成をしていくわけでありますが、本学で学んだ自信と誇りをもって、実りある悔いのない人生を歩まれることを祈念しております。

大学院長式辞 金澤一郎

記憶には「覚えておく」、「思い出す」という三つの独立したプロセスがあるといわれています。年を取って真つ先にダメになるのが「思い出す」というプロセスです。脳には残っているのに、それを引っ張り出せない時があるということなのです。ただ、容易に思い出せるようにする方法があります。それはリハサルをすること、つまり、時々思い出して、「記憶を新たにしておくこと」です。



本来絶対忘れてはならない出来事を私たちは本当に覚えているだろうか？時々思い出して「記憶を新たにしているだろうか？六月二三日の沖縄戦終結の日、八月六日と九日の広島と長崎に原爆が投下された日、そして、その太平洋戦争が終った八月一日。実は、この四つの日、天皇皇后両陛下は「お慎みの日」として一切の私的行事をお慎みになり、決められた時刻に祈りを捧げられるのです。本日は東日本大震災の三日後にあたります。私には三月一日が両陛下の五つ目の「お慎みの日」になったのではないかと思えてなりません。今日この日が他ならぬ三月一日のすぐ後であったことを時々思い出しては身を引き締め、皆さんはこれからの人生を堂々と歩んで価値あるものにしていただきたいと思います。

総長式辞(抜粋) 矢崎義雄

本日は、無事にご卒業おめでとうございます。皆さんは、修得した専門的な知識と技術を、いよいよ実際の社会に活用して、社会で困っている方々、そして患者さんを治療して、あるいはお世話をして助けるといって、社会的な使命の高い、極めて生きがいのある道を進まれることになると思います。また、皆さんに対する社会からの期待も極めて大きいと思います。



一方では、医療と福祉、介護は社会の状況、たとえば人口動態や経済などの変化により、大きく影響を受けることがあります。それにより皆さんは困難な、そして厳しい環境に遭遇することがあるかもしれません。しかし、皆さんの進む道は揺るぎのない道であり、初心を忘れずに自信を持って真直ぐに進んでください。皆が応援しています。最後に、医療、介護の知識と技術は日進月歩で進歩します。皆さんは、これで学習が終わったということではなく、生涯学習の道を選んだことを忘れることなく、毎日、患者さんへの対応に創意工夫を凝らし、また新しい知識を導入して、わが国の医療、福祉、介護の発展にご尽力ください。よろしくお願いたします。本日は誠にありがとうございます。

一生の財産を得た六年間 薬学科 井坂ひとみ

六年間は、長いようで短かったなと思います。友人たちと「六年って、小学校に通うのと一緒だよ！」と話していたことが、昨日のことのようです。まず講義・実習では、五年次の実務実習が特に印象に残っています。現場で働く薬剤師の指導を受けながら、薬剤師としての仕事を体験できたこの経験は、必ず将来役に立つと確信しています。また、大田原に来たことで、那須野が原ハーモニーホール楽団である那須フイルハーモニー管弦楽団に縁あって所属させていただきました。さまざまな職種、世代の方々と音楽を通して知り合いになり、趣味である音楽を楽しまつ、楽団の方々が、時には厳しく、時には優しく接して下さり、私にとって一生の財産となりました。



最後になりましたが、先生方をはじめとして、家族や友人たちに支えていただいたことに感謝しています。皆様のおかげで、私は卒業することができました。本当にありがとうございました。

大学での学びを生かして

看護学科 後藤加織

医療福祉の総合大学であるこの大学で関連職種連携を学び、自職種のみならず他職種の理解を深めるとともに、「チーム医療・チームケア」の精神、スキルを学ぶことができました。「チームで機能する」というのは、医療に限らず地域保健においても同様であると考えます。また、地域住民の健康の保持・増進には、専門職が先陣を切ったとしても地域住民の協力が得られなければ、前進することは困難です。そこで、専門職のみならず、地域の方とともに地域保健の向上・増進に向け活動していきたいと考えています。四年という歳月の流れのなかで得たものすべてが今の自分を構築し、その一つひとつがかけがえのない思い出です。両親をはじめとする、先生方、友人、これまで私を支えてくださったすべての人に感謝申し上げます。この国際医療福祉大学で学んできたことに誇りを持ち、四年間の学びを、地域住民の健康を守る保健師として生かしたいと考えています。



素晴らしい学科での四年間

理学療法学科 遠藤裕伽

フレッシュマンキャンプで初めてアドバイザグループを知らされ、理学療法学科のみんなと話しました。入学当初は不安しかなかったのですが、その不安は一日ですっかり取り除かれました。



乗り気ではなかった運動会も、始まってしまえばどんどん波に乗って、「気づいたら優勝していた」という感じでした。この運動会のように、「気づいたら四年間が終わっていた」というくらい、私の大学生活はあっという間でした。

親身になって考えてくださる先生方がいて、協調性に長けている仲間がいて、こんな学科はなかなかないのではと思うくらい素晴らしい学科でした。たくさん壁にぶち当たったり、大変だったこともありましたが、この学科だったから乗り越えられたと思います。この大学の卒業生であることを誇りに思い、これからの社会人生活を送っていききたいと思えます。たくさん助けてくださった先生方、何度も支えてくれた仲間へ感謝します。ありがとうございました。

作業療法の楽しさを知った

作業療法学科 友部由理

入学時、私は作業療法士について楽しく物づくりをしているイメージを持っていました。大学での講義を通し、作業療法の対象の広さに加え、患者様の人生と向き合う職業であることを知り、その難しさに悩んだこともありましたが、実習を通して作業療法の楽しさを感じ、作業療法士になりたいという思いが強くなりました。これも熱心にご指導くださった先生方のおかげだと思います。また、四年間優しく見守り支えてくれた家族や友人にも心から感謝しています。



今は作業療法士として新たなスタートラインに立ち、希望と不安でいっぱいです。臨床の現場に出てからも様々な困難にぶつかるとは思いますが、作業療法の楽しさを知った時の気持ちを忘れずがんばっていきます。また、この四年間で学んだ真摯な態度で向き合うことや患者様のことを考え続けることの大切さを忘れず、質の高い医療を提供できるよう努めていきたいと思えます。

出会いと繋がり

言語聴覚学科 笠原真紀

大学で過ごした四年間、大変なこともありましたが、とても充実した毎日を送ることができました。そしてこの四年間は臨床家としての技術や土台を学ぶとともに、人と人との繋がりを学ぶ場であったと思っております。自分の良いところも悪いところもさらけ出して深く付き合える仲間や、学科を超えてともに学び信頼できる仲間に出会えたこと、未熟な私たちの臨床に嫌な顔をせずお付き合いしていただいた患者さんに出会えたこと、より良い環境で勉強できるように配慮してくださり、優しく見守りながら時には厳しく常に熱心にご指導してくださった先生方に出会えたこと。このような素晴らしい出会いの中で学ぶことができた四年間は私にとって一生の宝となりました。

これから働くなかでたくさんさんの困難や悩みにぶつかるとも思いますが、さまざまな人と出会い経験をすることで少しずつ成長し、一人ひとりの繋がりを大切にしながら、患者さんの心に寄り添える言語聴覚士になりたいと思えます。



ピックアップ卒業生

まわりの支えに感謝

視機能療法学科 小原由美

大学生活は多くのことを学び、感じ取ることでできたかけがえのない四年間となりました。印象に残っているのは臨地実習です。眼科の検査では自覚的な見え方を評価することが多く、そのなかで、自分だけではなく、患者さんの協力があってこそ検査が成り立つのだと感じました。また、「あなたに検査をしてもらえてよかった」と患者さんからいただいた言葉は今も胸に残っています。医療従事者として、自分が患者さんを支える立場であると同時に、患者さんにも支えられていると感じることができました。



この四年間はいつも応援してくれた両親をはじめ、先生方、友人の支えがあったからこそ乗り越えられたものだと思います。四月からは視能訓練士として一人でも多くの患者さんに「見えることの素晴らしさ」を感じてもらえるよう努力していきます。大学は卒業ですが、学んだことを生かしていくのはこれから。まわりの支えに感謝しつつ、これからも成長していきたいです。

利用者の幸せに近づく研究を続けたい

博士課程

先進的ケア・ネットワーク 開発研究分野 石山麗子

博士論文を書き上げることができました。この資格は介護保険制度の施行とともに誕生しました。「一〇年以上も経つのに専門性が低い」等の社会的な批判があります。その批判は科学的分析に基づくものではありませんが、ケアマネジャー側も反論できずにいるのが現状です。要するに必要な研究が行われていない分野なのです。ケアマネジャーの実践者だからこそのこの一〇余年の技術の積み重ねが科学的根拠に基づいて社会に提示され、それを土台に更なる研究が積み重ねられ、ケアマネジメントの専門性が高められることを願っています。それが利用者やその家族が受けるケアマネジメントの質の向上に直結するからです。

このような意義や責任を感じていても、



ピックアップ。修了生

入院していた病院に就職

放射線・情報科学科 黒川有紀



私は中学生の時に病気にかかり、約一年間入院した経験が医療従事者をめざすきっかけになりました。高校二年生の夏にオープンキャンパスに参加し、明るく和やかな雰囲気の中で本学に入学しました。

大学生生活は、実験レポートや定期試験など辛いこともたくさんありましたが、同じ目標を持った仲間たちと支え合って乗り越えることができました。また、部活や学内行事に参加し、他学科の友人とも出会うことができました。先生方には、国家試験に合格するためだけではなく、より専門的な知識や技術、医療人としての在り方を教えていただきました。四年間お世話になった先生方をはじめ、支えてくれた友人や家族に本当に感謝しています。新年度からは入院していた病院に就職することが決まりました。在学中に学んだことを生かして、患者さんだけではなく、ご家族にも安心感を与えられるような診療放射線技師を目標にがんばっていききたいと思います。

挑戦することのできた力

医療福祉・マネジメント学科 大平寛



勉学からその他の活動までさまざまなことに挑戦したこの四年間は、やり甲斐の連続から、あつという間に過ぎました。大学生生活の印象を聞かれれば、大半の人は「自由」と答えると思います。私はその自由な時間を活用し、部活動や学生会活動、大学祭などの学校行事から地域のイベントまで携わり、主に運営の裏方として頑張ることで、社会人としてのマナーや経験を積み、そのたびに信頼できる友人も増え、やり甲斐に満ちた四年間を過ごすことができました。

私はこの大学で可能なかぎり挑戦し、苦しい経験をした分、感動や発見があり、それらを力に変えることができたので、新入生の皆さんにも、あえて困難に立ち向かっていくことをお勧めします。ここでの四年間の苦労は必ず将来皆さんにとってかけがえのないものへと変わり、力になってくれるはずです。最後になりますが、将来、本学で学んだ皆さんと医療福祉の現場でともに働けることを心待ちにしています。

研究や論文執筆は、決して生半可な気持ちではできません。併せて多くの方の研究に対する理解と協力が不可欠です。私が研究を継続できた原動力は、それが「多くの方の思いのうえに成り立つ」研究だからです。途中で投げ出すことはできません。博士の学位取得は目的ではなく、「一人でも多くの利用者とその家族に少しでも幸せになつてもらいたい」との多くの方の願う形に近づく過程と考えています。簡単に答えが出る取り組みではありませんが、これからは少しでも社会の役に立つ研究を続けてまいる所存です。

仕事と家庭と研究と

修士課程

診療情報アナリスト養成分野 高橋真由美



医事課勤務であった私に診療情報管理士の資格取得の話が舞い込んできたのは、保育園に通う息子があと半年で卒園という時期でした。「春からお母さんも一年生になって勉強を始める」と子供に告げ、二年の通信教育と試験に臨み、無事資格

友人の支えに感謝

医療福祉・マネジメント学科 泉理紗

以前から医療福祉に関心があった私は、「医療」と「福祉」を学べると同時に、経営資源を有効に活用するために不可欠な「マネジメントスキル」を身につけることのできる医療福祉学部に入学を決めました。診療情報管理士認定試験の資格取得をめざし、基礎医学や診療情報管理、診療報酬等を学び、病院実習や関連職種連携実習を経て、昨年三月に無事合格することができました。

大学生生活を笑顔で過ごすことができたのはかけがえのない友人たちがいたからです。夜遅くまで自分たちの将来を語り合ったこと、旅行したことなど、すべてが忘れられない思い出です。辛い時、悲しい時にも気持ちを共有し支え合える友人たちに出会えたことを誇りに思います。熱心に指導してくださった先生方、先輩、後輩、友人、そしていつも温かく見守ってくれた両親には本当に感謝しています。社会人となりますが、「共に生きる社会」の精神を胸に、人として成長できるようにがんばっていききたいと思います。



兼任し、臨床経験が一〇年を経過した頃に、私のなかで一つの疑問が膨らみ、大学院への進学を決意しました。通常業務に加えての大学院の研究は、戸惑いや悩みを感じる時期もありましたが、「臨床と研究は表裏である」との言葉に出会い、私自身の成すべきことが見え始めました。その後の院生生活における研究では、質的研究法を用いて収集したデータを眺



め、考え、そのデータから声が聴こえるまで向き合う日々を送りました。時に孤独を感じることもありましたが、ゼミの仲間や先輩方に支えられ、さらに高橋絃士教授と相原和子教授から指導いただいたことで、何とか論文をまとめることができました。そして、研究の真理の一端を垣間見たときには何事にも代え難い喜びを感じました。

しかし、すべての真理が解明されたわけではなく、今後の臨床においても多くの疑問にぶつかるとしています。その疑問の一つひとつには意味があり、それが臨床と研究を繋ぐ鍵であるので、今後も研鑽を積んでいきたいと考えています。それが、研究に快くご協力いただいた皆様への恩返しであり、大学院での学びの一つであると考えています。

疑問は臨床と研究を繋ぐ鍵

修士課程

医療福祉学分野 宮崎 聡

私は、医療法人社団桜珠会可也病院で精神保健福祉士として勤務しています。院内の相談支援業務と精神科訪問看護を

新任のごあいさつ

本年四月より新たに10名が、副学長、副大学院長をはじめ、学部長、学科学長、施設長に就任いたしましたので、ごあいさつ申し上げます。



丸山仁司 副学長 保健医療学部長 医療福祉学部長

平成七年より理学療法学科長として八年間勤務させていただきました間、本学および関連の施設は目覚しく発展してまいりました。学部学科の増設、附属病院、大学院、関連施設の開設など毎年新しい事業が展開され、この中で少しでも関与できたことは大変な喜びと幸せでありました。

今後、高校生の減少などから受験生の確保対策、教育手法・カリキュラムの改革、関連病院を中心とした臨床実習、国家試験対策、就職とその後の生涯教育など多くのことが課題となっております。学長の補佐をしながら、これらに少しでも尽力できれば幸いです。

国際医療福祉大学および関連施設の発展のため、微力ながら最善の努力をしてまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



桃井眞里子 副学長

前職では、医学生への教育と同時に、多くの医療専門職の方々の活躍の現場におりましたので、すべての医療専門職のプロとしての誇りと質が医療の質を決めることを実感してきました。

多種多様な医療専門職がそれぞれの視点、知識、技能、そして患者さんへの温かい心を発揮して、初めて満足度の高い医療が成立します。その意味で、本学が全国に先駆けて多様な医療人を育成すべく設立され、多くの領域に人材を輩出してきたことは、医療界への多大な貢献であり続けてきたと思われまふ。

将来の良質な医療を担う一員となるべく本学で学ばれている学生さんたちには、人生を医療と福祉のプロフェッショナルとして生きることの素晴らしさを日々の学習のなかから見出し、日本の医療を創り出す気概と誇りを持って果立ってほしいと願っています。

新宿けやき園施設長 副大学院長 杉原素子



杉原素子 東京都新宿区百人町にある当施設では、開設以来九五年が経ちました。都営住宅やマンションが建ち並ぶ住宅街にあり、また一人暮らしの高齢者が多く住む地域でもあることから、地域住民に対する当施設の貢献が期待されています。特別養護老人ホームと障害者支援施設の入所機能ばかりでなく、短期入所、通所等の地域高齢者や障害者を支援するサービスもご提供しています。

新宿けやき園は、高層の都営住宅、西戸山公園に囲まれ、高齢者がゲートボールに親しんだり、幼い子どもが走り回って遊んだりする姿が日常的に見られます。そして近隣に住むご家族が毎日のように当施設を訪れるのもまた日常的な光景になっています。

四月には新入職員を迎え、心を新たに新宿けやき園職員一同、ご利用者やご家族の皆様へ寄り添い、精一杯業務に励んでまいります。グループの皆様のご協力をお願いいたします。

保健医療学部 理学療法学科長 福岡保健医療学部 理学療法学科長 黒澤和生



黒澤和生 基礎理学療法学、運動系理学療法学が専門。小田原保健医療学部理学療法学科長を経て現職。日本理学療法士協会理事。社会学修士、保健学博士。

平成八年の大田原キャンパス勤務から数え、一七年目を迎えました。その間、他大学を経験した後、小田原キャンパス勤務、二度目の大田原勤務、福岡キャンパス勤務と、他では味わうことのできない貴重な経験をさせていただきました。どうぞよろしくお願ひいたします。



旭満里子 薬学部 薬学科長

薬剤師はチーム医療のなかで、患者様や医療スタッフから信頼され、臨床的な問題点を発見・解決できる能力が必要です。薬学の基礎学力と臨床能力およびコミュニケーション能力を備えたバランスのとれた人材を育成するため、薬学部全教員と力を合わせて取り組んでいきます。

福岡保健医療学部長 医学検査学科学長 辻貞俊



辻貞俊 九州大学医学部、産業医科大学医学部長などを経て現職。日本臨床神経生理学会理事、日本てんかん学会理事、日本神経学会・日本神経治療学会名誉会員など。医学博士。

従来からの三学科に、四月一日から医学検査学科が新設され、学部長を福岡保健医療学部に変更という、新たな船出になりました。医学検査学科の効果もあり、福岡保健医療学部全体の志願者数も昨年比で倍増いたしました。学生および教職員の皆さんとともに、新学部としての新たな伝統を作り、さらに飛躍させたいと思います。

新設の医学検査学科には、多くの志願者が集って、受験者の質も非常に高いものとなり、成績優秀な一八名の新入学者を迎えることができました。従来の臨床検査の教育とともに、オーダーメイド医療に対応できる遺伝子解析、診断に重要な形態・分析検査およびエコー・MRI検査に対応できる生理機能検査を新学科のカリキュラムに取り入れ、社会に求められる高度先進医療を支える臨床検査のスペシャリストの育成をめざします。新学科の充実した教育環境および教育体制を確立し、第一期生はもちろん、学部全体で国家試験合格率一〇〇%をめざします。

福岡看護学部長 齊藤ひさこ



齊藤ひさこ 佐賀大学医学部看護学科学長などを経て現職。佐賀母性衛生学会理事、日本看護研究学会評議員、日本助産師会佐賀県支部支部長、佐賀県助産師会会長など。

福岡看護学部は本年、完成年度を迎え、第一期生八八名を送り出しました。同時に百道浜にキャンパスを移し、新たな環境で看護学教育に取り組み準備が整いました。地域社会や世界で活躍できる看護職の育成をめざし、学ぶ楽しさを実感できるよう歩んでいきたいと思ひます。

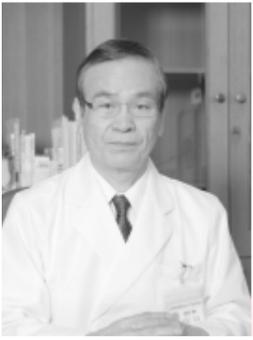
福岡保健医療学部 作業療法学科学長 原口健二



原口健二 九州リハビリテーション大学校卒、医学博士。専門は精神科リハビリテーション。日本作業療法士協会養成教育部、福岡県作業療法協会監事など。

福岡保健医療学部は、開設から間もなく一〇年。学生教育指導の良き面を最大限に活用し、楽しい学生生活を支援したいと思ひます。「人間中心」、「開かれた」、「国際性」をキーワードに、厳しいなかにも学生中心主義の教育体制を構築してまいります。

国際医療福祉大学塩谷病院長 早川正道



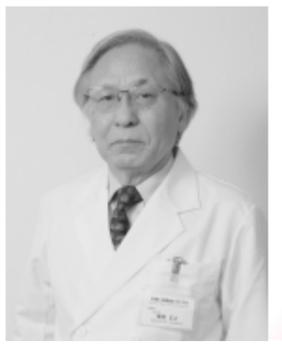
早川正道 慶應義塾大学卒、医学博士。防衛医科大学校名誉教授。前防衛医科大学校校長・病院長。日本泌尿器科学会専門医・指導医。

四月一日に国際医療福祉大学塩谷病院長として着任いたしました。当院は四年前に設立され、大学グループあげてのご支援と江口前院長並びに病院職員の方々の力が相まって、地域の中核的な総合病院としての役割を果たしつつあります。今後、開設予定の新病棟の効果的運用、医師の増員とそれに伴う患者数の増加や救急医療の充実などが求められ、新院長の責任の重大さを痛感しております。

このたび、大田原キャンパスでの入学式に参加し、医療福祉専門職を育てる総合大学としての華々しい成果を実感することができました。当院でも保健医療学部と薬学部の学生に臨床実習の場を提供し、学生教育に参加しています。大学の卒業生に対し魅力的な職場を提供するためにも、当院のスタッフの教育能力と個々の専門性の向上が求められます。

今後、急性期、回復期、そして慢性期まで、幅広く地域のニーズに対応できる病院としてその機能を高め、充実させていくように努めてまいります。

介護老人保健施設マロニエ施設長 横地正之



横地正之 順天堂大学卒、医学博士。元都立荏原病院神経内科部長。前都立荏原病院臨床試験管理センター長。日本神経学会神経内科専門医、日本認知症学会専門医。

昭和四三年に旧インターン制度の最後の研修を終えた後、まだ萌芽期であった神経内科を選択して、故・楢林博太郎教授の教室に入りました。パーキンソン病などの神経変性疾患に関する臨床と運動生理学研究をしてきました。さらにアルツハイマー病などの認知症疾患も自らの診療の柱としています。

これらの経験を踏まえて、脳の老化による精神・運動機能の減退の実態を現代の目で把握し、最近の「延命を希望しない」とする国民の意識変化も勘案しながら、「家族との在宅生活」、「老人施設における生活」について、健康で豊かな、しかも有意義な余生を過ごすための支援に責任が付託されていると認識しています。その思いを胸に、任命を受けた介護老人保健施設・総合在宅ケアセンターの責任者として職員とともに英知を出し合い、よりよい介護をめざします。

特に近接の国際医療福祉大学病院にはお世話になりますが、一層の連携をよろしくお願ひいたします。

新任のごあいさつ

第26回 小田原

キャンパスレポート

平成二四年度 学位記授与式

三月一日、小田原キャンパスで、小田原保健医療学部と大学院の学位記授与式が挙行された。晴天にも恵まれ、小田原市副市長の加部裕彦様、神奈川県議会議員の守屋輝彦様、独立行政法人国立病院機構神奈川病院院長の加勢田静様をはじめ数多くのご来賓、保護者、教職員に見守られるなか、学部卒業生一四九名（看護学科四名、理学療法学科四名、作業療法学科四七名）と、小田原・熱海キャンパスに所属する大学院修了生一七名（博士課程六名、修士課程一一名）に学位記が授与された。



●学長賞受賞者、左から五十嵐さん、山崎さん、仙波さん

北島政樹学長、金澤一郎大学院長より学位記を受け取った総代は、仙波由紀子さん（看護学科）、三浦和さん（博士課程）、梶山倫子さん（修士課程）。

続いて、仙波由紀子さん、山崎諒介さん（理学療法学科）、五十嵐美紀さん（作業療法学科）に学長賞が授与された。式辞では、北島学長が「明日から皆様は、医療福祉の専門職のリーダーをめざし活躍されることと思いますが、『共に生きる社会』をつくる先導者となることを、教職員一同、常に見守り大きな期待を寄せています」と述べられ、卒業生に心に刻んでおいて欲しいと、ナイチンゲールの言葉を卒業生に贈った。「自分が褒められるためではなく、私たちが選んだこの仕事に名誉をもたらし、それを前進させるために心を打ちこんで事を成し遂げていきましょう」

学部卒業生代表の山崎諒介さん、大学院修了生代表の出口弦舞さん（博士課程）から謝辞が述べられ、その中で山崎さんは、「先生方には、医療専門職としての知識・技術だけでなく、社会人としての振る舞いや、医療人としての姿勢などを指導していただいた。四年間で培った知識・技術・経験を胸に、社会貢献できるよう、今後も努力を重ねていきます」と述べた。最後に、学部卒業生代表の五十嵐美紀さんから卒業記念品が贈呈され、学位記授与式は終了した。

午後は、学科長（大学院は大学院長）から一人ひとりに学位記が手渡される学位記伝達式が行われた。四年間の思いや学友との惜別の情が溢れたのか、涙を見せる卒業生も数多く見られた。教職員一同、卒業生の今後の活躍を祈念している。（総務課 高久晃）

平成二四年度 謝恩会

学位記授与式終了後、ヒルトン小田原リゾート&スパに会場を移し、謝恩会が挙行された。各学科から集まった謝恩会実行委員を中心に一〇月から準備を始め、国家試験直前も貴重な時間を割いて準備に努めた。



●寺岡学部長にお礼の花束を渡す謝恩会実行委員長の川井智貴さん

厳粛な学位記授与式を終えて、謝恩会では、お世話になった先生方や大学時代をともに過ごした仲間との最後の時間を弾けるように楽しんでいく姿があった。「一期一会」の意味をしみじみ感じているのであろうか、凝縮された四年間に出会った恩師や仲間との別れを惜しみ、話が尽きない様子だった。



お世話になりました!

会場内では先生方や学生同士で談笑したり、記念写真を撮りあつたりする姿が見られ、にぎやかで、和やかな時間が過ぎていった。



●お世話になった先生と記念の一枚!!

美化活動

平成二三年度より開始した小田原駅周辺美化活動。今年度は、一二月二日に看護学科、一月二五日に理学療法学科、二月二二日に作業療法学科を中心を実施した。二年目の実施とあって、学生の美化活動への取り組みは積極的に多くの学生が参加した。次年度は各学科二回、年六回実施予定。（学務課 佐藤浩子）



←これが小田原キャンパス



●謝恩会実行委員の皆さん

小田正枝学部長最終講義

福岡看護学部の学部開設準備室時から開設に向けてお手伝いいただき、開学後は初代学部長として、学部運営および学生教育にご尽力いただいた小田正枝学部長が、平成二四年度で学部長を退任され、本学大学院にご専念されることになった。

小田先生の学部最終講義が、平成二五年二月一八日、『I期生に伝えたいこと』をテーマに、I期生はじめとする学部生、大学教職員など約一〇〇名を前に行われた。

学生時代の先生自らの写真や先生が尊敬される看護会をリードした二人の先生のお話や研究テーマである「適応」についての話など、わかりやすいながらも、看護教育の第一人者のお話として非常に重みのある内容であった。

I期生を四年間見守り続けた学部長として、看護師という職業の先輩として、今から看護師の世界に旅立つ卒業生へ、看護師という職務の重み、そしてそれと同じくらいのやりがいと喜びがあることを伝えた。小田先生には引き続き、国際医療福祉大学大学院教授として、お力添えをお願いいたします。（入試広報部 藤田祐子）



●感謝の気持ちを込めて花束贈呈

初めての学位記授与式

第16回 福岡

キャンパスレポート

平成二五年三月二二日、福岡看護学部は初めての学位記授与式の日を迎えた。例年より早く咲き始めた桜が風に揺れるなか、福岡看護学部初めての学部卒業生となるI期生八八名が福岡天神キャンパスから旅立っていくこととなった。

当日は、桜の花にも劣らない華やか、かつ晴れやかな笑顔の卒業生たちが次々と校舎に集い、おごそかに式の幕を開けた。

在校生で結成された合唱隊と卒業生が校歌を斉唱。その後、卒業生総代・刈茅志保さんが北島政樹学長から学位記を授与された。

続いて成績優秀者に贈られる表彰では、学長賞と同じく刈茅志保さんへ、日本私立看護系大学協会会長表彰が平尾秋帆さんへそれぞれ贈られた。



●福岡看護学部第1期卒業生

北島学長、久常節子副大学院長、高木邦格理事長から式辞をいただき、その後、福岡県保健医療介護部医監・香月進様（県知事代読）、福岡市中央区保健福祉センター所長・石井美栄様（福岡市長代読）、福岡県看護協会会長・神坂登世子様からお心のこもった祝辞をいただいた。

卒業生の謝辞は、卒業生総代・刈茅志保さんが務め、この四年間の学校生活を通して得た知識や経験は、なにもものにも代えがたい財産であること、今まで応援してくださった先生方や家族に感謝し、四年間ともに過ごした友人たちとの思い出を支えに、皆様に貢献できる看護師になることを誓った。

最後に卒業記念品の目録が卒業生から北島学長に贈られた。

引き続き学位記伝達式が行われ、小田正枝学部長から卒業生一人ひとりに学位記が手渡された。

その後、学部の先生方全員から卒業生にお祝いの言葉が贈られたが、涙で言葉につまるシーンも見られるなど、先生方も福岡看護学部初めての卒業生に感慨ひとしおの様子。夕刻からは、市内のホテルにて祝賀会・謝恩会が行われ、高木理事長、北島学長をはじめ、多くの来賓の方々にご参加いただいた。

第30回 大川

キャンパスレポート

福岡リハビリテーション学部 および大学院の学位記授与式

四月に医学検査学科を開設し、学部名称が福岡保健医療学部に変更となるため、福岡リハビリテーション学部としては最後の学位記授与式が、三月一日、同学部講堂で行われた。

当日は晴天にも恵まれ、大川市長の植木光治様、大川三藩医師会会長の松本英則様をはじめ、多くのご来賓、保護者、教職員が見守るなか、学部卒業生一五九名（理学療法学科九四名、作業療法学科四一名、言語聴覚学科二四名）、九州地区の大学院修了生二〇名（博士課程一名、修士課程一九名）の計一七九名に学位記が授与された。

まずは、学部卒業生総代の中元唯穂さん（作業療法学科）に北島政樹学長から、続いて、博士課程総代の浜崎満治さん（保健医療学専攻、修士課程総代の原百実さん（保健医



●謝辞を述べる中元唯穂さん



療学専攻）に金澤一郎大学院長から学位記が渡され大きな拍手に包まれた。成績優秀者に贈られる学長賞の表彰を受けたのは、中元唯穂さん（理学療法学科）、中元唯穂さん、大迫未央さん（言語聴覚学科）の三人。土谷美耶子さん（理学療法学科）、黒木優さん（作業療法学科）、友池理歌さん（言語聴覚学科）の三人は全国リハビリテーション学校協会「優秀賞」が授与された。

続いては、学部生を代表して中元唯穂さんによる謝辞。ひたすら勉学に励んだ日々を振り返り、年間成績最優秀賞

第8回 塩谷 看護 専門学校

キャンパスレポート

第五回生 三二名の奇跡

三月五日、涙と感動に包まれながら第五回生の卒業式が挙行された。そして、三月二五日、本校構内は再び涙と感動に包まれた。教職員および第五回生の悲願であった、看護師国家試験「全員合格！」を成し遂げたのである。

第五回生は、教職員のみならず当該学生達も公言するほど、本学史上稀にみる「まとまりのなさ」を誇る（？）クラスであった。思い起こせば、担任から模擬試験の結果が公表されるたびに職員室は絶句し、溜息の嵐であった。残るは神頼みとばかりに、願いは一つ「全員合格！」の文字を背中に入れたTシャツを着て、教職員の熱き想いを学生の前で表明をしたのは九月のスポーツ大会

のことであった。しかし、当の学生たちは「ケセラセラ」と一向に焦る気配もなく、我々の想いなど、どこ吹く風であった。そんな状態でも、さすが



に国家試験まで二か月を切ったところから、やる気スイッチがオンになった様子に安堵した。ところが、日頃から学習習慣が乏しく、困難なことから逃避しやすい傾向にある昨今の学生である。自宅学習中に「思うように学習が進まない」と言っている泣きながら担任に電話をして来る者や、不安から不眠になる者など精神的に不安定になる学生も現れ、「受験棄権もやむなし」と危惧される学生もいた。

しかし、そこから教員の想像を超えていた。その実情が明らかにされたのは卒業式の答辞であった。受験勉強に奮起した学生たちは「まとまりのなさ」を一掃し、いつしか仲間意識が芽生えたとのこと。互いを励まし合い、助け合う行為が社会的促進効果に結び付き、グループダイナミクスを生み出したと考えられる。そして、学生個々の行動変容に至る軌跡が、今回の国家試験一〇〇％合格という奇跡を起こしたといえよう。

「第五回生の諸君、三月二五日一四時、合格発表の瞬間の喚起に満ちた感動をいつまでも忘れないでほしい。これから長い看護の道を歩む日々が始まるのだ。その道程において、時には道に迷って遠回りしたり、不安になって逆戻りしたりすることがあるだろう。そんな時はどうかこの感動の日を思い出してほしい。君たちには共に戦った同士がいる。これからは共に助け合い、それぞれ医療の場での活躍を期待したい」

我々は君たちの頑張りを忘れない。貴重な場面に立ち会えたことに感謝する。

(教務部 村上貴子)

を受賞できた喜びとそれを支えた先生方や友人、ご両親への感謝の気持ち、実習病院の方々の温かい励ましや患者様の笑顔に助けていただきながら努力を続けてこられたことへの感謝、そして、常に向上心を忘れぬリハビリテーションのスペシャリストをめざす決意を述べた。

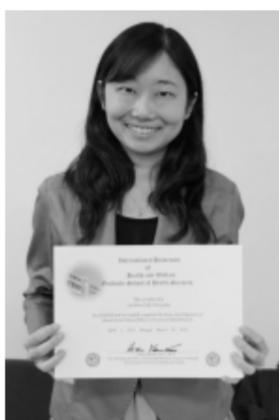
その後は大学院修了生代表の榎英一（保健医療学専攻）さんによる謝辞があり、最後は卒業生代表の大迫未央さんから北島学長に卒業記念品が贈呈され、おごそかな雰囲気なか、式の幕は閉じた。

ブラジルからの 研究生

研究の成果を報告会で発表

国際医療福祉大学大学院の研究生、平山栄子カロリナさんが一年間の研究を終えて帰国するにあたり、三月一九日、福岡リハビリテーション学部の教員を前に留学の成果や感想を報告した。

カロリナさんは祖父父母が福岡県三井郡大刀洗町出身、サンパウロ市育ちの日系三世で、サンパウロ連邦大学物理療法学部の卒業生。小児理学療法学の



●修了証を手にするカロリナさん

分野での最新の理論や先端の事例に関する研究を行うことを目的に、後藤純信教授の指導のもと、本大学院の研究生として大川キャンパスに通った。

「福岡リハビリテーション学部にはリハビリテーションの中核を担う理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科があり、さらに医療機関とも協力関係にあるので、より実践的な臨床実習を受けることができると考えました」というのが、本大学院を留学先として志望した理由である。

留学中は、日本のリハビリテーション医療の実際を体験し、急性期・回復期の各領域、理学療法法の機能・役割を理解するとともに、他領域が対象とする多様な障害についての理解を深めるために、大川市の高木病院などグループの三病院での実習も経験した。

「日本の理学療法と医療システムをみることで、勉強になりました。特に、小児のリハビリテーションに興味があったので、柳川療育センターでの実習はよい経験となりました。今後は、小児理学療法学の研究成果を生かし、ブラジルで理学療法士として活躍したい」と報告発表をそう締めくくったカロリナさんには、教員からも温かい拍手が送られた。最後は、金出英夫副学長から修了証が授与され、報告会は終了。「私を温かく受け入れてくださったみなさんに心から感謝しています」という言葉を残し、カロリナさんは希望を胸に帰国した。

(九州地区広報室 帆足リエ)

冬季海外保健福祉事情 オーストラリア研修

異文化コミュニケーションを通じて得た経験を大切に

言語聴覚学科 准教授 内田信也

オーストラリア研修は、保健福祉事情の学習や医療福祉施設の見学のみならず、語学学校での英語クラスへの参加やホームステイという、他の研修とは異なる特性がある。他国の保健福祉事情を学ぶことにより、本邦のそれを省みるといって「海外保健福祉事情」科目の目的達成はもろんのこと、異なる言語文化を持つ人たちのコミュニケーションに積極性が増していく様子を見ることができたのは、引率した者としての喜びであった。

本学においても「チーム医療 チームケア」教育が重視されているが、「チーム医療 チームケア」の実践において大切なことはスタッフ間のコミュニケーションである。異なる背景を有する専門家同士のコミュニケーションと、本研修で体験した異文化間コミュニケーションには通じるところが多いのではなからうか。研修を通じて感じ得たさまざまな思いを持って、チームの

研修先スタッフを囲んで



●研修先スタッフを囲んで

一員として患者・クライアントに貢献できる医療福祉職に成長することを願う。

二週間のオーストラリア滞在で 医療福祉マネジメント学科三年 加納郁実

日本以外の医療福祉事情を知りたい、英語を学びたい、という思いからオーストラリア研修に参加した。私にとって初めての海外であり、ホームステイ、語学研修、施設見学等どれも新鮮で、内容の濃い二週間であった。

滞在中、認知症ケアに関する講義を受講した。その中で、Person Centered Care、「どのような患者であっても感情がある」とことを認識し、できることに焦点をあてる「ことが大切だ」と述べられていた。既に本学の講義でも同様のことを学んでいたが、国は違っても患者さんへの接し方は同じだと思っただ。語学研修では上級クラスに入ったのだが、レベルが高く、初日は辛い思いをした。クラスメイトは韓国人やフランス人など多国籍で構成されていたが、皆、優しく話しかけてくれ、徐々に慣れ、楽しく英語を学ぶことができた。

オーストラリアでの滞在を通じ、医療福祉制度、文化など、日本の良さにも気づくことができた。今回、関わってくださった現地の方、ホストファミリー、先生方、友だち、みんなに感謝したい。



●ホストファミリーと

看護学科

四年生卒業前研修会

三月五日（八日、卒業式を一週間後に控えた四年生を対象に「卒業前研修会」を実施した。今年度で第四回目である。



新卒看護師を取り巻く環境は、リアルティシヨックや早期離職など社会的な諸問題を抱えている。そこで本学科では、静脈採血や点滴注射、導尿、酸素吸入など強化すべき技術項目について卒業直前に再度研修を行うことで技術習得度を高め、さらに通常の臨地実習では体験できない多重課題や複数患者への対応などの不安を解消することにより、速やかな職場適応を図っている。受講した四〇人は小グループに分かれ、フィジカルアセスメントシミュレーターなど最新の教材を活用し、納得するまで研修を重ねた。（教授 村松由紀）

FD学習会

二月一四日、「臨床心理士から学ぶ」今どきの学生との付き合い方をテーマにFD学習会（教員の教育能力向上を目的とした学習会）を開催した。高校教師の傍らロールプレイングやサイコロドラマ

第八回 看護研究発表会



●ユーモアを交え講演する久常節子副大学院長

国際医療福祉大学関連病院第八回看護研究発表会が二月二三日、国際医療福祉大学三田病院の三田ホールで行われた。看護研究発表会は、平成一七年六月に第一回看護部長会が発足し、看護研究発表会を開催することとなって以降、今年度で八回目の開催を迎えた。当日は約一七〇名の参加があり、大盛況となった。午前の部は、日本看護協会の前会長を務めた久常節子副大学院長の教育講演が行われた。看護教育の改革や、組織化・制度化というところで、久常先生がどのように闘ってきたか、ユーモア

トピックス

を学んだユースカレッジ学長の丸山隆先生による講義「現代社会に生きる青少年の特徴」は、多くの事例と豊かな表現力にあふれ大変魅了された。講義に続く演習では、自分たちで学生と教員を演じることにより、自己を振り返り、学生への対応について理解を深めた。

少子化社会で大切に育てられた「今どきの学生」は、コミュニケーション力が弱い。自分から「助けて」といえないこともあり、日常の関わりの中で気づく姿勢の必要性を感じた。また、助言は内容ではなく、誰から言われたかが重要との指摘は、尊敬される教員である重要性を認識させられた。引張っていく父親的リーダーシップだけでなく、一人ひとりに気を配る母親的リーダーシップがやる気を引き出すという信念は、先生が経験からつかみとられたものだと思感じた。立派な看護師になってほしいとの気持ちが伝わるよう、学生を応援し続けたい。（講師 北原玉依）

視機能療法学科

臨地実習指導者会議

二月一五日、本学大学院東京青山キャンパスで、第九回臨地実習指導者会議を開催し、臨地実習施設のうち一八施設、二一名の視能訓練士が参加した。北島政樹学長、新井田孝裕学科長の挨拶、小町祐子講師の臨地実習要綱の説明に続き、堀口涼子助教が「視能訓練士の熟達プロセスについて」の講演を行い、視能訓練

アも交えながら熱く語っていただいた。久常先生は本場にパワフルな方で、私は終始圧倒されてしまったが、「看護を何とかしたい」という熱い思いに溢れていて、こんな方が本学大学院副大学院長にいらっしやるということが、とても心強く感じられた。

午後の部は、関連病院や大田原・小田原キャンパスの先生からの研究発表が行われた。臨床からの研究発表は、どの発表も日頃の業務の中から生じた疑問や問題点を基にした研究テーマを設けていて、とても興味深く拝聴できた。臨床で毎日多忙であるにもかかわらず、これだけの問題意識を持ち、さまざまな手法で研究を行い、本日の発表会に至ったことに心から敬意の念を抱いた。大学の先生からの研究発表は、研究のあり方・看護界の発展を願うようなもので非常に刺激的であった。また、臨床で実際に直面している問題が研究テーマとなり、大学の先生方が研究発表してくれて、発表していただくことに、大学と臨床の連携を感じ、自分も研究に取り組んでいきたいという思いが湧いてきた。質疑応答では活発な意見交換が飛び交い、とても有意義な会になったと感じた。



●発表者への質疑応答にも熱が入る

（国際医療福祉大学三田病院 看護部 副主任 西山美咲）

士の熟達者像と、熟達していくためには職場においてどのような環境が必要であるかを述べた。

意見交換会では、施設の方から実りある実習にするための意見が出され、臨地実習担当教員として参考になった。学生にとって臨地実習は知識・技術を臨床の場で実践・応用できる絶好の機会となるため、今回いただいた貴重なご意見を今後の実習指導に役立てていきたい。（助教 堀口涼子）



医療福祉・マネジメント学科 国家試験直前対策講義 & 壮行会

四年生は一月に入ると、月末に実施される社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験へ向けてラストスパートをかける。本学科では、この受験直前の時期に、直前対策講義、直前ガイダンス、炊き出し壮行会を開催している。今年一月五日と六日に開催された。

直前対策講義では、教員の熱のこもった授業に、四年生は緊張感を持って聞き入った。講義で直前の総まとめをし、さらに実践問題を解くことにより最終チェックをして本試験に備えた。炊き出し壮行会（愛称「すいーっと受かれーっ 先輩！」）では、難関の

AD介護 スキルアップ講座

本学とあいおいニッセイ同和損害保険株式会社との主催による「AD介護スキルアップ講座」が二月一四日に開催された。講座は、高齢者介護施設の管理者、職員らに向けた初めての試みで、朝九時半から夕方五時近くまでの一日の研修会である。



●竹内孝仁教授から修了書が手渡された

午前は大学院の竹内孝仁教授による「自立支援時代の高齢者施設」をテーマにした講義で、おむつ外し、認知症など、自立支援のためのケアの在り方について、特別養護老人ホームでの実践事例を交えて講義がされた。午後は東島から「福祉用具」に関わる法律改正などの講義、事故を防ぐための「安全確認トレーニング」演習を行い、介護ロボットなど最新の機器についてのプレゼンテーションも行われた。参加者は約五〇人、施設関係者のほかデイサービスセンターや介護事業の運営に携わる人たちが参加、終了時には竹内教授から一人ひとりに修了証が手渡された。

（大学院 福祉支援工学分野 准教授 東島弘子）

国家試験を突破しようとかんばっている先輩の応援のため、三年生を中心として手作りのカレーやお汁粉を振る舞った。また、手書きの応援メッセージが書かれたお菓子を配り、最後に教員と三年生全員でエールを送った。（講師 松本一郎）

合同表彰式

本学科では、経営学検定、日商簿記検定、診療報酬事務能力認定、医療情報技術師能力検定、診療情報管理士、ITパスポート、医療情報基礎知識検定の取得を推奨している。平成二四年度は延べ二〇五名が合格し、その表彰式が卒業論文の表彰式と合わせて一月二四日に行われた。



卒業論文では、最優秀論文賞、優秀論文賞、奨励賞が計四名に贈られた。最優秀論文賞は、後発医薬品の現状と課題を医療機関でのアンケートから導出した田島莉奈さん。「大学での学習の集大成として、このような賞がもらえてうれしいです」と目を潤ませて話す様子が印象的であった。（准教授 今野広紀）

ダンス大会で入賞しました

放射線・情報科学科 教授 大嶽達 三月二（三日、幕張メッセで「日本インター」の次に大きな試合である「スーパージャパンカップ」が行われ、グランドシニア選手権（五五才以上）の全国大会で中部や西部の選手も参加)のスタンダード部門とラテン部門に出場しました。おとしの武道館の「日本インター」で、スタンダード三位、ラテン六位だったのに続き、今回、スタンダード四位、ラテン七位と両部門で決勝に入ることができました。



「日本インター」も「スーパージャパンカップ」も、グランドシニアの両部門で決勝に入ったのは、現在の形式になったここ一〇数年で多分私だけのようです。パートナーは家内の洋子です。



トピックス

国際医療福祉大学大学院 2014年度 入学生募集

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみならず、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか（本学卒業生は入学金が免除になります）

「働きながら大学院で学びたい」社会人が学びやすい3つの特長

- ① **キャンパス** 大田原、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に6つのキャンパスを開設しています。
- ② **カリキュラム** 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間に行っています。
- ③ **同時双方向遠隔授業** 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。



TOPICS 「助産学分野（福岡）」、「がん先端医療に対する多職種連携重点コース」が開設されました

平成25年4月、福岡キャンパスに「助産学分野（福岡）」が開設されました。福岡地区における助産師養成や助産学研究者・教育者育成をさらに充実していきます。また、文部科学省補助事業として、博士課程に新コース「がん先端医療に対する多職種連携重点コース」が開講されました。看護学、放射線・情報科学、薬学等異なる専門領域の院生がともにがん先端医療の実際を学び、協同して治療計画を策定できる専門医療職の養成をめざします。ご関心のある方は、大学院HP（<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/ganpro/index.html>）をご覧ください。

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで（TEL：0287-24-3200）

施設インフォメーション

附属病院 国際医療福祉大学病院

「キッズセミナー」を開催

三月二〇日（春分の日）に、今年で四回目となる「キッズセミナー」（外科手術体験セミナー）を開催した。

今回は栃木県と福島県の中学生三二名が参加。手術着に身を包んだ生徒は、手術室でさまざまな体験をした。最初は、三月十七日に当院に導入された手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」。なかでも当院が導入したのは、入出力装置が二つ備わったデュアルコンソールタイプの「Si」。栃木県初の最新鋭型だ。



●医師に指導され真剣に操作する生徒

モニターを通じて微細な模型を操作する生徒の表情は真剣そのもので、最先端の医療機器に触れる緊張と興奮を味わっていた。操作後は、「素晴らしい経験ができました。将来、外科医や医療に携わる仕事に就きたいという思いがさらに強まりました」という感想が聞かれた。

室井副看護部長らが味の素製薬Awardを受賞

二月二〇日から二二日まで石川県金沢市で開かれた第二八回日本静脈経腸栄養学会で、当院の室井幸江副看護部長らが、意義深い「味の素製薬Award」を受賞した。喜びの声を紹介する。



●受賞した室井幸江副看護部長（左から二人目）

「今回、日本静脈経腸栄養学会と味の素製薬が連携し、優秀なメデイカルスタッフ（看護師、薬剤師、栄養士）の研究支援を目的とする「味の素製薬Award」賞を設立した。研究テーマは、「腹腔鏡下胃・大腸手術に対して摂食支援食を用いた超早期経口栄養の安全性と満足度および有効性の検討」。看護部門での受賞だが、本学がめざす「チーム医療・チームケア」の成果が評価されたと考えている。医師だけが中心となる従来の医療から、医師、看護師、薬剤師、栄養士、医療事務が連携する患者中心の医療へのchangeをめざした。表彰式では学会の評議・理事約五〇〇人の前で発表し、緊張の連続だったが、看護人生において最も貴重な体験となった。この体験を後輩に伝え、当院が進めるチーム医療の質をより高め、成長していきたい」（副看護部長 室井幸江）

附属病院 国際医療福祉大学三田病院

病理診断センター

モルドバ共和国使節団来訪など

一月一四日、モルドバ共和国の Andrei Usai 保健大臣をはじめとする政府視察団一八名が来訪された。病理診断センター長の長村義之教授が本学と三田病院および病理診断センターの概略を説明した後、分子病理診断室やテレパソなど備えた病理診断センターを視察した。

モルドバ共和国でも医療の刷新と新病院の建築など国家的なプロジェクトが生まれ、最新の機器を完備した三田病院、グループとして全国展開をしている国際医療福祉大学に感銘を受けられ、和やかなうちに視察を終えた（写真①②）。

三月一四日には、北米病理学会前会長であるDr. Sylvia Asaが三田病院のModern Pathologyを視察され、国際的なコラボレーションを希望された写真③。



① ② ③

附属病院 国際医療福祉大学熱海病院

第二回 熱海病院 公開講座を開催

二月三日、第二回公開講座を開催した。テーマは「知っておきたい痛みと痛みのしくみとその治療」。唐澤英偉副院長の司会のもと、池澤善郎上席副院長の講演「掻かずにはいられない痒みのしくみとその治療」をはじめ、四本の講演を四名の医師が行った。当日は天候に恵まれ、来場者は二〇〇名を超えた。講演後は質疑応答のほか、希望者にはメデイカルチェックや個別相談に対応した。（総務課 篠原拓真）



●熱気に包まれた会場

化学療法研究所附属病院 回復期リハビリテーション病棟 開設予定

化研病院は本年七月、旧結核病棟の建て替えに伴い、回復期リハビリテーション病棟（三四床）を新設する。また、既存の病棟を改修し、人工透析センター、外来化学療法や予防医学センター（人間ドック部門）を拡充する。また、かねてより取り組んでいた公益財団法人への移行が正式に認可され、四月一日より新たなスタートを切った。（総務課 篠原拓真）



●新病棟の完成予想図

学べる! 役立つ! 究める! 動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ 医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

- **理学療法分野** 第47回日本理学療法士協会全国学術研修大会(鹿児島)
- **作業療法分野** 2012作業療法フォーラム、第51回作業療法全国研修会(岩手)
- **言語聴覚分野** 摂食・嚥下リハビリテーションの実践
- **厚生労働省情報** 障害者の範囲への難病等の追加に係る自治体担当者会議(2月12日開催) ※無料配信 障害保健福祉関係主管課長会議(2月25日開催) ※無料配信
- **医療・福祉・経営実務** 経営者のための医療政策の潮流講座
- **情報BOX** 納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)
- **介護・福祉分野** 医療福祉の転換～地域包括ケアシステムの構築へ～ 自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護2012

お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係（月曜～金曜 9:00～17:00） Eメール info@iryufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

学生向け動画配信サイト「国際医療福祉大学VODライブラリー」 <http://www.ch774.com/student.php>

● **大学授業・副教材** 文学論、死生学、国際医療福祉論、世界遺産と国際文化政策、医学/医療史、健康科学理論、リスクマネジメント論、トップクラス講義、関連職種連携論、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、等

広報誌 IUHW 93号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

【大田原キャンパス】 広報委員会 栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000

【小田原キャンパス】 神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

【福岡キャンパス】 福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4 ☎092-407-0805

【大川キャンパス】 福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000

編集：大田原キャンパス広報室 ☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン
写真：米山真人





先輩が伝授！ 自炊ビギナーのための簡単レシピ

言うまでもなく、食べることは生きることを支える大切な行為のひとつ。そこで、この春ひとり暮らしを始めた新入生に、先輩がとっておきの「簡単&スタミナレシピ」を紹介します。

友だち作りのホームパーティにぴったり！

めんつゆを使えば失敗なし！



たこ焼き

理学療法学科3年 **高野綾さん** (中央)
福島県立福島東高校出身
勝俣沙妃さん (左)
山梨県立吉田高校出身
大平詩織さん (右)
福島県立磐城桜が丘高校出身

作ってくれた人

友だちとワイワイやりたいときに、材料を持ち寄ってすぐに始められるし、鍋よりお手軽だからおすすめです。980円で購入したたこ焼き器が大活躍。竹串を使ってみんなでクルクルすれば会話も弾み、夜の7時に始めて夜中の1時を回っていたことも。冷蔵庫にあるものやお菓子の変わり種を試してみるのも楽しいし、眠くなったら、きつ〜いわさび入りのロシアンルーレットで目を覚ましましょう。



本日の材料
・日清たこ焼き粉
・たこ、キャベツ、ソーセージ、ちくわ、揚げ玉
・マヨネーズ、オタフクお好みソース、削り節



作り方 たこ焼き粉を指定の分量の水で溶き、具を細かく切って混ぜたら、あとはたこ焼き器で焼くだけ。

ベーコン・ほたて・ほうれん草の和風パスタ



医療福祉・マネジメント学科2年 **細木拓実さん** (左から2人目)
福島県立湯本高校出身
青津泰平さん (左端)
福島県立喜多方高校出身
阿久津知志さん (右から2人目)
栃木県 文星芸術大学附属高校出身
雪竹祐介さん (右端)
茨城県立水戸桜ノ牧高校出身

作ってくれた人

100円ショップで手に入る「パスタ茹でケース」が便利。パスタとたっぷりの水、塩を入れ、フタをしなくて電子レンジに入れると茹で上がりやす（時間は標準+5分が目安とか）。フタに湯切り用の穴が開いているので、ザルを洗う手間も省けます。具をどっさり入れると思いのほかボリュームたっぷりに仕上がるので、取り分けてみんなで食べられます。ホタテが安い日に試してください。



本日の材料
・ベーコン、ベビーホタテ、冷凍ほうれん草ミックス
・バター、こしょう、市販のめんつゆ



作り方 フライパンにバターを溶かし、具を炒める。火が通ったら茹でたパスタを加える。全体からむ程度にめんつゆを入れ、最後にこしょうを振る。

本格的に料理の腕を磨きたい人は！ 洋食アラカルト



視機能療法学科2年 **菅波望さん** (左)
福島県立磐城桜が丘高校出身
塩田あゆ美さん (右)
栃木県立真岡女子高校出身

作ってくれた人

高校の時から自分でお弁当を作っていました。空手部に入っているのでスタミナ食として煮込みハンバーグは定番。焼きムラや焼き過ぎ、油のハネの心配がないので、初心者にもおすすめ。たまねぎのほかに、ピーマンや椎茸を細かく切って入れることも。ナツメグで味のアクセントをつけてください。にんじんやたまねぎは使う大きさに切って、水を軽く振りながらラップに包んでレンジにかけると茹でる手間と時間が省けます。

ポテトサラダ



本日の材料
・じゃがいも、にんじん (カットしてレンジで茹でる)、ゆで卵
・塩、こしょう、マヨネーズ
・レタス、プチトマト、パセリ (飾り付け用)

作り方 茹でたじゃがいもをつぶし、茹でたにんじん、刻んだゆで卵と混ぜる。最後にみじん切りパセリかドライパセリを振りましょう。

煮込みハンバーグ



本日の材料
A. 牛ひき肉、たまねぎ (みじん切りをレンジで茹でる)、卵、パン粉、牛乳、ナツメグ
・カットマト缶
・コンソメ、ケチャップ、中濃ソース

作り方 Aを混ぜ、手でこねて丸める。銅にオリーブオイルをひき、軽く焼いたらカットマト缶を入れて煮る。味付けはお好みで。

ポトフ



本日の材料
・じゃがいも、にんじん、たまねぎ、ブロックベーコン
・塩、こしょう、コンソメ

作り方 材料は乱切り、ブロックベーコンは大きめにカット。ベーコンから出る塩味や香りを生かして、味付けは控えめに。